

異常確認の有無

工事との関連性

対策の検討

目視観察結果	<p>・目視観察の結果、工事に伴う異常は確認されなかった。</p>			
水質調査結果	<p>基本・補助監視地点 基準値 St.1~4:SS=7mg/l:St.5~7: SS=11mg/l</p>	<p>・基準値を超える値は観測されなかった。</p>		
詳細結果	<p>浚渫現場周辺監視地点 基準値 St.8, 10~12, 32~36: SS=11mg/l</p>	<p>・基準値を超える値は観測されなかった。 ・但し、5日午後11時にSt.36で11mg/lの高い観測値が観測された。</p>	<p>・St.36における5日午後の観測時期は、水深が0.6mと浅く、引き潮に向かっており、波浪による底質の巻き上げが影響していると考えられる。 ・工事由来の濁りは観測されなかった。</p>	
詳細結果	<p>その他の監視地点 基準値 St.14~16:SS=11mg/l</p>	<p>・St.14で基準値を超える値が7回観測された(12~21mg/l)。 ・St.14では12日午後12mg/l、16日午後17mg/l、19日午後21mg/l、20日午後15mg/l、22日午後13mg/l、29日午後19mg/l、30日午後14mg/lが観測された。</p>	<p>・工事現場周辺では工事に由来すると考えられる濁りは観測されていないため、波浪や低潮位時における底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。 ・工事由来の濁りは観測されなかった。</p>	
詳細結果	<p>流入水路部 St.A, St.21, St.22</p>	<p>・SS=11mg/lを超えた回数: St.A=51回(12~74mg/l)、St.21=27回(12~90mg/l)、St.22=40回(12~93mg/l) ・St.Aでは1~30日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は16日午後(74mg/l)に観測された。 ・St.21では5日、1日、3日、4日、8~12日、15日、16日、18日、20~28日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は16日午後(90mg/l)に観測された。 ・St.22では1~4日、6~19日、22~28日、30日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は16日午後(93mg/l)に観測された。</p>	<p>・降雨や生活排水による流入水路からの濁水の流入や波浪による底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。 ・工事由来の濁りは観測されなかった。</p>	<p>・特に無し</p>
気象概況	<p>監視地点において異常値が観測されたのは、16, 19, 20, 22, 29, 30日であった。 ・12日は南よりの風が強く(最大風力5)、降水量は2mmであった。 ・16日は西ないし南よりの風が強く(最大風力6)、降水量は4mmであった。 ・19日は北よりの風が強く(最大風力6)であった。 ・20日は北東よりの風が強く(最大風力3)であった。 ・22日は西よりの風が強く(最大風力4)、降水量は37mmであった ・29日は北西よりの風が強く(最大風力4)であった。 ・30日は北西よりの風が強く(最大風力3)であった。 (*最大風力は調査員による現場観測値)</p>			
補足項目 調査結果 新種等	<p>・H17年度環境監視計画に基づく「補足項目(新種等)」に関する年間調査計画は以下のとおり。 ウミヒルモ類監視調査: H17年4月・7月・9月(台風後)・11月・H18年2月 ニライカナイゴウナ調査: H17年4月・7月・9月(台風後)・11月・H18年2月 オサカニヤドリガイ監視調査: H17年4月・5月・6月・7月・8月・9月(台風後)・11月・H18年2月 オキナワヤワラゴニ生息監視調査: H17年4月・7月・8月・9月・9月(台風後)・11月・H18年2月 ・結果についてはホームページにて公表中。</p>			
工事実施状況	<p>・海上汚濁防止膜設置及び撤去: 18~21, 23~25, 27日(合計8日) ・浚渫土砂投入、均し: 1~18, 20~24, 26日(合計24日) ・盛砂採取、設置: 4~7日(合計4日) ・浚渫作業など: 1~15日(合計15日) ・27日: 平成17年度工事完了</p>			

